

むと云ふ有様親も止むなく業務を中止し子供の機嫌取りに腐心せる、或神經過敏の親は大眼玉を喰はせ鐵拳を興へて遂に最愛の子女を矯めさんとするを見る之れぞ却て悪影響を興ふのみにして善良なる感化を興へず中流以上の家庭に於ては幼稚園の力を借らずとも完全に育つことを得れども下層民は然らず噫實に是等の子弟は日常其生活其境遇交友により一面實業の妨害となり幼児の良萌芽をも完全に育て上ぐることはざるなり、故に下層社會の子弟を收容し保育すること眞の幼稚園を設立せし効あるにあらずや偕て保育料につきては其生活状態即貧富の程度に由りて免除又は少額を徴收し中等以上の家庭よりは保育料を多額に負擔せしむる様の方法を採ること至當ならん今後は此方針計畫を望むや切なり



## 都會に於ける小兒保育 上の注意

雨 峰 生

都會に住居し都會に生活して居て、我が子を保育して行く上に痛切に感ずるのは、自己の所有地、自己の所有家屋なき爲に、愛郷の念愛家の心を養ふに不便なる事である。田舎に於ては殆ど總べての人が自己の土地を所有し、自己の家屋を持つて居つて、自己の家屋を愛し、自己の生れた郷里を愛し、進んでは愛郷愛國の念を養ふのに、非常に都合が宜しい。之に反して都會に於ては大部分の人は借地人である、借家人である、善い家屋を追うて轉移して行く人である。昔地理書に於て中央亞細亞あたりの土人は、皆水草を逐うて移轉するといふことを學んで、どういふことかよく合點が行かなかつたが、東京などに於て、善い水のある家や、水道のある家や、庭の廣さうな所やを選ん

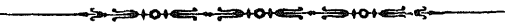
で引越しする有様は、取りも直さず水草を逐うて  
 移轉するやうなものだと合點が行つた。水草を逐  
 うて移轉するやうな生活は、獨身の折や、放浪生  
 活をする折や、まだ子供の折には非常に便利  
 で都合がよいこともあるけれども、既に子供を持  
 つた以上、大に考へねばならぬことと思ふ、人情  
 一つ所に久しく住めば、そこにいろいろと複雑な  
 關係が出来、いろいろと雑多の聯想が出来、愛郷の  
 念がこゝに萌芽するのだけけれども、孔席暖なる  
 に暇あらず、昨日は東今日は西で、善い家があれ  
 ば引越す、住みあきたから引越す、近所がさわが  
 しいから引越す、何のかんのといろいろの理由の  
 下に引越をしては、愛郷の念の起らう筈がない。  
 愛郷の念やがてこれ愛國の念であつて見れば、郷  
 りを愛する念慮の起らぬやうな都會的生活は、兒  
 童の保育上實に寒心すべき點ではなからうか。無  
 論田舎の人のやうに、其の日の日の生活に逐は  
 れ、父祖傳來の田畑を失ひ、到底浮む瀬がないの  
 に、奮發して他郷に出稼しやうとする念慮がちつ  
 とも起らぬのも善い事ではないが、しかし都會の

人のやうに、善い所があれば何處でも移轉しやう  
 さながら徹れたる靴を捨つるが如く、今までの住  
 處を捨て去るが如きも響められた話ではない。若  
 しも東京のやうに教育を受けた人が澤山住んで居  
 る都會に於て、其の住民が皆我が郷里我が家屋と  
 いふやうなる觀念を以て、其の區内其の町の公共  
 の事どもに一臂の力を添へたならば、東京の各部  
 分は如何に立派なる發展を遂げるであらうか、實  
 にはかり知るべからざるものがあらう。此の點は  
 今論じやうと思ふ主題ではないので、此の點で切  
 りあげておくが、實に惜しい事である。一般の家  
 々に於て、愛家愛郷の念に乏しいから、知らず識  
 らずの間に於て子供に影響を及ぼして来る。子供  
 の頭には愛家の念愛郷の念といふものが殆どない  
 我が住める土地のために力を盡して見やうとか、  
 我が住める町内をして模範的の町内とならしめや  
 うとか、左様な高尚の考が子供の頭に殆ど宿り  
 やうがない。都會に於て生活し都會に於て我が子  
 を教養して行く所の人は、此の點に就て大に考慮  
 をめぐらさなければならぬと思ふ。

二、愛家の念を養へ

雇人根性といふものは、世間から非難せられる主人の見てゐる處では働かぬ振をする、陰では盛に油を賣つてゐる、主人の前では子供を大事にする陰では随分子供をつねりもする打ちもする、非難されるのは當然だ。しかし人間は境遇に支配せられるものだ、少い給料で多い時間働かねばならぬ雇人、休息し安眠する時間は少くて、動もすれば酷遇し虚使される雇人であつて見れば、樂をし骨惜みをするも幾分恕すべき點がないでもない。ましてや教育の乏しい思想の低い人たるに於てをやだ。それさへ制度の弊を見とめて、近來は利益の幾分かを雇人に與へるやうな仕組になつて來た、或は教育を施し知識を與へるやうにつとめて來た、雇人根性が非難せらるる價值があれば、借家人根性といふ者も亦等しく非難される價值はあるだらう。住まれるだけは住みあらし、善い家を見つけては又引越をする、それも現今のやうな制度では已むを得ぬことでもあらうが、何とかそこに法がないものであらうか。長い年月住み込んだ人

には、家賃の幾分を割り戻すと加、丁寧に住まつたものには益設備を完全にしてやるとか、住まふ方にも貸す方にも共に利益があり共に快い方法が幾らもあるであらうと思ふ。しかし此處では之を論ずるのが本意でないから借家人根性について論じて見やう。住まれるだけは住んで、善い所を見つけては引越すると、成程算盤とつては目前一寸利益があるやうにあらうけれども、既に自己の品性の上に幾分の汚點を印したといふやうなもの、況んや其の事が冥々の間に自分の大切な子供、黄金にも白銀にもすべての寶にもかへがたいといふ自分の子供に悪影響を與ふるに至つては、大に考へねばならぬではないか。さてどういふ風な悪影響があるかといふに、我が住まつて居る建築物を愛護する念慮に乏しいのみならず、公共の建物や何かに對して之を大切にするといふ考が缺如する。恒の産なきものは恒の志なしとやら、それは人情已むを得ぬことであらうが、苟も教育を受けたる人たる以上は、よしや常の産なしとて、恒の心があるやうにせねばならぬ。それと同じやうに苟



も教育を受けて、社會に相當な地位を占めて居る以上は、自分の家は持たなくとも、借家人根性は持ちたくないものである。況んや此の借家人根性の我が子に及す悪影響の大なるものがあるに於ては猶更である。都會に住める人よ、自己の家なくして、已むなく他人の家を借る人よ、よしや二年の短日月の寓居にもせよ、苟も自己の住家に宛てたる以上は、これ自己の城廓である、全く自己所有の物と少しも異ならざる念慮を以て、之を丁寧に大切に取扱ひ、以て我が子をして、都會生活、借家生活より來る所の悪影響を受くることを免れて、家を愛し建物を愛し公共のものを愛護する立派なる品性を得しめられんことを希望するのである、なほ出來得るならば最初に善い所を選択し一旦居を下した以上は、成るべく居を轉ずることとなきやうにしたいものである。

三、住居の選擇

居は氣を移すといひ、環象人を造るといふ皆住居周圍が子供養育の上になたる關係を有し、品性陶冶の上に大勢力あるを道破したのである。それ

故に我が子の教育に苦心をし、全力を傾注して居たところの孟母は、我が子の教養の見地からして三たび居を移したといふことだ。此の話は有名な話で今更言ふにも及ばぬが、苟も我が子の養育に苦心をし注意をして居る所のものは、孟母ならずとも、三たび居を移す位のことば誰しもするであらうと思ふ。然らば如何なる住所が最も小兒教育に適當であるかといふに、其の重なる條件は空氣の清潔なる所、日當りのよい所、車馬の雜踏しない所、運動すべき廣場のある所、適當なる遊び友達の得られる所がよいと思ふ。此の條件を備へて居る所は住居として、子供教育の場所として非常に宜しいといはねばならぬが、扱それだけの條件を備へた所は先づ都會には少いやうに思はれる。第一の條件たる空氣の清潔なる所は、都會にはないと思はねばならぬ。紅塵萬丈の都會に於て、製造工業の繁盛なる都會に於て、空氣の清潔なる所を求むるのは無理である。此の條件に當てはまるのは市街の隣接地たる接續市であらう。東京ではは大久保なり、田端なり日暮里なり巢鴨なりで

あらう。然し是等の接續市に於ても工場の大なる地たとへば王子の如き、本所深川邊の如き、必ずしも空氣清潔とはいひ難い、否却て都會の或る地域よりは却つて空氣の汚れて居るべきは彼のむらむらと立ちのぼる煤烟、時には天日を蔽ひ、曇れる空におほひかゝる黒烟によりてトすることが出来る。よしや郊外の空氣が又非常に清潔であつたとしても、人によりては其處に住まふことの出來ぬ事情がある。それは自己の職業によりてはとうしても市中に住むを要するものがあらう、勤務の都合によりては遠方より通ふことを不可能とするものがあらう。よしや交通機關は如何に便利なりとも、之を利用することの出來ぬものもあらう(まだある)

### 如何なる兒童が取扱に

### 骨が折れるか

峯 間 信 吉

普通教育も次第に進歩して來て、中々兒童の取扱

も上手になつたのであるが、之れを教化するには實に骨が折れる。其骨の折れる中でも、どんな種類の兒童が最も取扱ひに困難を感じ、教化し難いかと云ふに

### 悪い家庭から來る兒童

悪い家庭から來る兒童が最も困難である。元來兒童の學校に居る時間は、頗る短時間で、一日中の大部分は家庭にあるものであるから、若し其の家庭が悪かつたら、それが骨身に沁み込んで、到底學校の訓育位では感化し難い。通常の家庭に於いては、學校の先生に言ひ附けるとか、罰して貰ふとか云つて、威しなからも教へ込むことが出來、學校でも良家庭の兒童であつたなら、家庭と相待つて好果を得ることも出來るが、家庭の悪いのばかりは如何する事も出來ない。兒童はそんなに悪くなくとも、家庭が悪しければ、折角學校で作り上げやうとするのを毀して仕舞ふ。實際斯かる例は少くないので、例へば暑中休暇に學校で兒童に或る課題を授けて、少々なりとも休暇中のつなぎ